

運用報告書(全体版) 満期償還

第8作成期

第14期(償還日:2018年9月28日)

*当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商 品 分 類	単位型投信／内外／その他資産 (ハイブリッド証券)
信 託 期 間	2015年2月27日から2018年9月28日まで
運 用 方 針	・世界(主に先進国)のG-SIFIsに指定されている金融機関が発行している米国ドル建て、ユーロ建ておよび英国ポンド建てのハイブリッド証券を主要投資対象とし、相対的に高水準かつ安定的な利子・配当等収益(インカム収入)の獲得を図りつつ、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。 ・原則として、投資するハイブリッド証券は、当ファンドの償還日前にコール(繰上)償還や定時償還が設けられている銘柄とします。 ・外貨建て資産については、為替変動リスクを回避するため、原則として為替のフルヘッジを行います。 ・実際の運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー(PineBridge Investments LLC)に外貨建て資産の運用に関する権限を委託します。
主 要 投 資 対 象	世界(主に先進国)のG-SIFIsに指定されている金融機関が発行しているハイブリッド証券を主要投資対象とします。
組 入 制 限	・株主への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎年1、4、7、10月の各15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

あしぎん世界金融機関 ハイブリッド証券ファンド 2015-02 〈愛称:グローバル・スピリット〉

——— 受益者のみなさまへ ———

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

「あしぎん世界金融機関ハイブリッド証券ファンド 2015-02」は、2018年9月28日をもちまして償還いたしましたので、運用状況および償還内容をご報告申し上げます。

長い間ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
〒100-6813 東京都千代田区大手町一丁目3番1号 J Aビル

お問い合わせ先・・・投資信託担当

電話番号／03-5208-5858

(受付時間／9:00～17:00(土、日、祝休日を除く))

ホームページ／<https://www.pinebridge.co.jp/>

目 次

◆あしぎん世界金融機関ハイブリッド証券ファンド 2015-02<愛称：グローバル・スピリット> 運用報告書 償還

◆設定以来の運用実績	1
◆当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
◆設定以来の投資環境	3
◆設定以来の運用経過	5
◆1万口(元本10,000円)当たりの費用明細.....	8
◆売買および取引の状況.....	8
◆主要な売買銘柄.....	9
◆利害関係人との取引状況等	9
◆組入資産の明細.....	9
◆投資信託財産の構成	9
◆資産、負債、元本および償還価額の状況.....	10
◆損益の状況.....	10
◆投資信託財産運用総括表	11
◆毎計算期末の状況	11
◆償還金のお知らせ	11

◆設定以来の運用実績

決 算 期		基 準 価 額				受 益 者 利 回 り	ハイブリッド証券 組入比率	元 本 率 残 存 率
		(分配落)	税 込 分配金	期 中 騰落額	期 中 騰落率			
第1作成期	(設 定 日)	円	円	円	%	%	%	%
	2015年2月27日	10,000	—	—	—	—	—	100.0
第2作成期	第 1期(2015年 7月15日)	9,906	45	△49	△0.5	△1.3	96.7	99.7
	第 2期(2015年10月15日)	9,746	45	△115	△1.2	△2.6	94.1	98.7
第3作成期	第 3期(2016年 1月15日)	9,720	20	△6	△0.1	△1.9	89.9	97.4
	第 4期(2016年 4月15日)	9,527	20	△173	△1.8	△3.0	86.8	95.6
第4作成期	第 5期(2016年 7月15日)	9,659	20	152	1.6	△1.4	83.1	93.3
	第 6期(2016年10月17日)	9,816	20	177	1.8	△0.1	85.4	89.7
第5作成期	第 7期(2017年 1月16日)	9,831	5	20	0.2	0.0	91.3	84.3
	第 8期(2017年 4月17日)	10,083	5	257	2.6	1.2	88.5	76.6
第6作成期	第 9期(2017年 7月18日)	10,349	5	271	2.7	2.2	88.9	71.4
	第10期(2017年10月16日)	10,394	5	50	0.5	2.2	95.2	60.4
第7作成期	第11期(2018年 1月15日)	10,450	5	61	0.6	2.2	91.8	54.3
	第12期(2018年 4月16日)	10,459	5	14	0.1	2.1	79.5	51.2
第8作成期	第13期(2018年 7月17日)	10,365	5	△89	△0.9	1.7	49.1	35.4
	(償 還 日)	(償還価額)						
	第14期(2018年 9月28日)	10,299.69		△65.31	△0.6	1.4	—	27.3

(注1) 設定日の基準価額は当初設定の投資元本です。

(注2) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注3) 受益者利回りは分配金込み基準価額の当初元本に対する年率換算利回りです。

(注4) 当ファンドは、適切に比較できる指数がないため、ベンチマーク等はありません。

◆当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		ハイブリッド証券 組 入 比 率
			騰落率	
第14期	(期 首) 2018年7月17日	円 10,365	% —	% 49.1
	7月末	10,343	△0.2	38.4
	8月末	10,329	△0.3	42.6
	(償 還 日) 2018年9月28日	(償還価額) 10,299.69	△0.6	—

(注) 騰落率は期首比です。

設定以来の投資環境

(2015年2月27日～2018年9月28日)

第1作成期 (2015年2月27日～2015年7月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、作成期中前半は、原油価格の反発や米国における利上げ開始時期の後ずれ観測などを受けて上昇基調で推移しました。作成期中後半は欧米の債券利回りの上昇やギリシャ債務問題への懸念などを背景に軟調な展開となりました。

なお、格付会社ムーディーズ、S&P、フィッチは、それぞれ新たな銀行格付手法に基づき、5月から6月にかけてグローバルの銀行格付見直しを発表しました。今回発表された格付け見直しについては、ハイブリッド証券にとって概ねポジティブなものになりました。

第2作成期 (2015年7月16日～2016年1月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、作成期首から9月にかけては、中国人民元の切り下げや原油価格の下落などを受けた世界的なリスク回避の動きが強まり、調整局面となりました。10月以降は過度な懸念の後退やECB（欧州中央銀行）による追加金融緩和期待などから反発を見せましたが、12月以降はFRB（米連邦準備制度理事会）による利上げへの警戒、中国経済減速懸念の再燃、原油価格の更なる下落などを受けて投資家心理が悪化したことから、作成期末にかけて軟調に推移しました。

第3作成期 (2016年1月16日～2016年7月15日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、2月中旬にかけては原油安の進行や欧州の金融機関への信用懸念の高まりなどを受け世界的にリスク回避の動きが強まる中、調整局面となりました。しかし、その後は米国マクロ指標の改善、FRBによる利上げペースの減速示唆、ECBによる追加緩和などを受けて安心感が広まったことから上昇に転じました。作成期末にかけては、英国のEU（欧州連合）離脱に対する警戒から下落する局面もありましたが、欧米の国債利回りが過去最低水準にまで低下する中、底堅い推移となりました。

第4作成期 (2016年7月16日～2017年1月16日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、6月の英国民投票におけるEU離脱決定に対する懸念が後退する中、9月にかけては上昇基調で推移しました。しかしその後は、FRBによる利上げ観測の強まり、ECBによる量的金融緩和の縮小観測などを背景に欧米の金利が上昇傾向となる中、軟調な推移となり、11月には米国大統領選挙の結果を受けて米国を中心に金利が急上昇したことから、ハイブリッド証券市場は急落しました。作成期末にかけては、米国金利の上昇に一服感が出たことが安心感となり、下げ幅を縮小する展開となりました。

第5作成期 (2017年1月17日～2017年7月18日)

当作成期のハイブリッド証券市場は、昨年11月の米国大統領選挙後の米国長期金利上昇が一服したことで作成期首から上昇して始まりました。3月に入り、米国の年内利上げペースが加速するとの観測の高まりから米国長期金利が上昇する局面で軟調に推移する場面もありましたが、その後は、

米国の経済指標の一部に弱い内容が散見されたほか、インフレ指標が低下したことやトランプ政権の政策実行に対する不透明感などから米国長期金利が低下したことが好感され、また信用スプレッド（国債への上乗せ金利）が縮小したことなどもあり堅調な展開となりました。

第6作成期（2017年7月19日～2018年1月15日）

当作成期のハイブリッド証券市場は上昇しました。北朝鮮情勢悪化などの地政学リスクの高まりなどを嫌気する場面もありましたが、FRBの次期議長にパウエルFRB理事が指名され、これまでのイエレン議長が行ってきた金融政策から大きな変更はなく、米国の利上げペースは緩やかなものに留まるとの見方が強まったほか、米国の税制改革法案の成立やドイツの連立政権樹立に向けた協議の進展期待などに伴う市場のリスク選好の動きの強まりから、信用スプレッドが縮小傾向となったことなども好感され上昇しました。

第7作成期（2018年1月16日～2018年7月17日）

当作成期のハイブリッド証券市場は下落しました。作成期首から、原油価格上昇などによるインフレ圧力の高まりや米国の追加利上げの継続などに伴う米国の長期金利の上昇が嫌気されました。その後も、トランプ政権の保護主義的な通商政策を受け米国と主要国との間で貿易摩擦の激化観測が高まったことや南欧の政治リスクの高まりなどから市場のリスク回避姿勢が強まり、信用スプレッドが拡大傾向となったことなどが嫌気され、軟調な展開となりました。

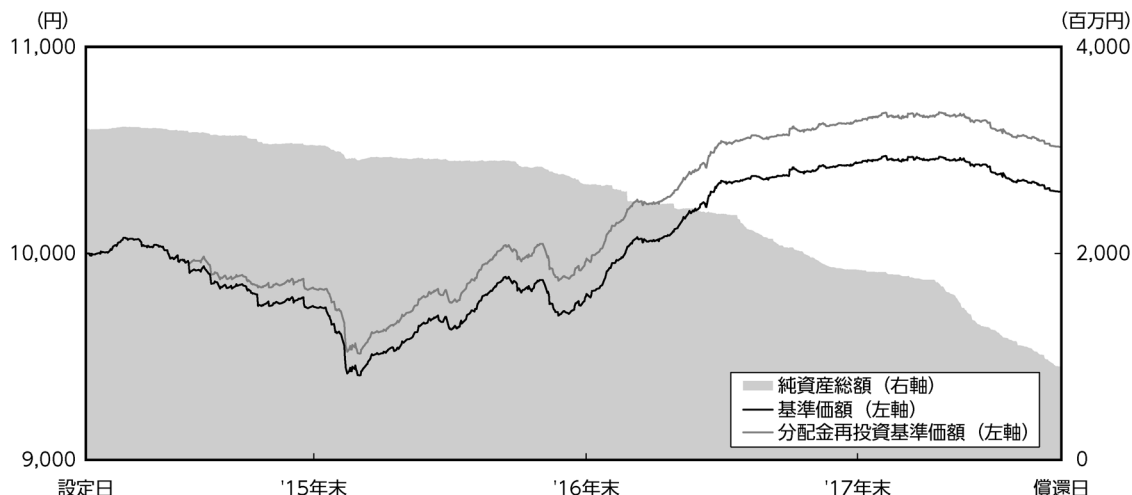
第8作成期（2018年7月18日～2018年9月28日）

当作成期のハイブリッド証券市場はほぼ横ばいでの推移となりました。前半は、原油価格の上昇一服に伴うインフレ圧力の低下や好決算発表を受けた株価上昇に伴うリスク選好の動きの中、信用スプレッドが縮小傾向となったことなどもあり堅調な展開となりましたが、作成期末にかけては、米国の長期金利が上昇基調となったことなどが嫌気されました。

設定以来の運用経過

(2015年2月27日～2018年9月28日)

基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 当ファンドは単位型投信ですので実際には分配金を再投資することはできません。また、課税条件等を考慮しておりませんので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の主な変動要因

第1作成期（2015年2月27日～2015年7月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が作成期中半ばから軟調に推移したことが基準価額の主な下落要因となりました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第1期45円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第2作成期（2015年7月16日～2016年1月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が総じて軟調に推移したことが基準価額の主な下落要因となりました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第2期45円、第3期20円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第3作成期（2016年1月16日～2016年7月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券のインカム収入が基準価額のプラス要因となった一方、保有ハイブリッド証券の価格が総じて下落したことが基準価額の主なマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第4期、第5期それぞれ20円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第4作成期（2016年7月16日～2017年1月16日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が総じて下落したことが主なマイナス要因となったものの、保有ハイブリッド証券のインカム収入が主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第6期20円、第7期5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第5作成期（2017年1月17日～2017年7月18日）

当ファンド保有のスタンコープ・フィナンシャルグループ、リンカーン・ナショナル、コメルツ銀行発行のハイブリッド証券について、繰上償還見送りが決定しましたが、3銘柄とも既に価格には繰上償還見送りが織り込まれており、適正な価格を模索する展開の中、当作成期中は上昇しました。また、XLグループ発行のハイブリッド証券も繰上償還見送りが決定しましたが、その後に発表された額面の93.0%で買戻す公開買付けに応じ売却したことで影響は限定的となりました。当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が総じて上昇したことに加え、保有ハイブリッド証券のインカム収入を得られたことが主なプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第8期、第9期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第6作成期（2017年7月19日～2018年1月15日）

当ファンド保有のハイブリッド証券の価格が総じて下落したことはマイナス要因となったものの、保有ハイブリッド証券のインカム収入を得られたことが主なプラス要因となり、基準価額は上昇

しました。また、RBS発行のハイブリッド証券について、繰上償還見送りが決定しましたが、同銘柄は既に繰上償還見送りが織り込まれており、適正な価格を模索する展開の中、当作成期は上昇しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第10期、第11期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第7作成期（2018年1月16日～2018年7月17日）

当ファンド保有のハイブリッド証券のインカム収入を得られたことはプラス要因となりましたが、保有ハイブリッド証券の価格が下落したことが主なマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

●分配金の状況

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準と市況動向を勘案して第12期、第13期それぞれ5円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきます。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

第8作成期（2018年7月18日～2018年9月28日）

当ファンド保有のハイブリッド証券のインカム収入を得られたことはプラス要因となりましたが、保有ハイブリッド証券の価格が下落したことが主なマイナス要因となり、基準価額は小幅ながら下落しました。また、既に繰上償還見送りが決定していたコメルツ銀行、リンカーン・ナショナル、RBS発行のハイブリッド証券について時価売却を行いました。基準価額への影響は限定的でした。

●運用経過

当ファンドの運用方針に基づき運用を行いました。2018年9月28日のファンドの償還に向けてポートフォリオの現金化を図りました。

受益者のみなさまには、長い間ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

◆1万口(元本10,000円)当たりの費用明細

(2018年7月18日～2018年9月28日)

項 目	第14期 (2018.7.18～2018.9.28)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信託報酬	25円	0.244%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,336円です。
(投信会社)	(12)	(0.119)	委託した資金の運用、交付運用報告書等の作成、ファンドの監査等の対価
(販売会社)	(12)	(0.119)	交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.006)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.005 (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転に要する費用
合 計	26円	0.249%	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。また、各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

◆売買および取引の状況

(2018年7月18日～2018年9月28日)

【ハイブリッド証券】

			買 付 額	売 付 額
外	ア メ リ カ		千米国ドル	千米国ドル
			－	1,380 (1,200)
国	ユ ー ロ	ド イ ツ	千ユーロ	千ユーロ
		そ の 他	－	937 1,214

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

◆主要な売買銘柄

(2018年7月18日～2018年9月28日)

【ハイブリッド証券】

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
—	千円 —	ROYAL BK SCOTLND GRP PLC 2.0060% (ユーロ・その他) LINCOLN NATIONAL CORP 4.3875% (アメリカ) HT1 FUNDING GMBH 1.8190% (ユーロ・ドイツ)	千円 160,426 156,726 123,881

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切捨て。

◆利害関係人との取引状況等

(2018年7月18日～2018年9月28日)

当作成期における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◆組入資産の明細

(2018年9月28日現在)

償還日現在における有価証券等の組入れはありません。

◆投資信託財産の構成

(2018年9月28日現在)

項 目	当作成期末（償還時）	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 906,987	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	906,987	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

◆資産、負債、元本および償還価額の状況

(2018年9月28日現在)

項 目	第14期末(償還時)
	円
(A) 資 産	906,987,542
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	906,987,542
(B) 負 債	3,238,682
未 払 解 約 金	1,008,320
未 払 信 託 報 酬	2,226,636
未 払 利 息	3,726
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	903,748,860
元 本	877,452,590
償 還 差 益 金	26,296,270
(D) 受 益 権 総 口 数	877,452,590口
1万口当たり償還価額(C/D)	10,299円69銭

<注記事項>

設定年月日

2015年2月27日

設定元本額

3,208,352,246円

第14期

期首元本額

1,138,857,145円

元本残存率

27.3%

1口当たり純資産額

1.029969円

◆損益の状況

(2018年7月18日～2018年9月28日)

項 目	第14期
	円
(A) 配 当 等 収 益	2,531,427
受 取 利 息	2,442,544
そ の 他 収 益 金	158,383
支 払 利 息	△ 69,500
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 6,493,314
売 買 益	75,304,214
売 買 損	△ 81,797,528
(C) 信 託 報 酬 等	△ 2,612,767
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 6,574,654
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	41,605,434
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 8,734,510
償 還 差 益 金 (D + E + F)	26,296,270

(注1) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 投資信託財産の運用の指図にかかわる権限の一部を委託するために要する費用は507,349円です。(2018年7月18日～2018年9月28日)。

◆投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日		2015年2月27日	投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日		2018年9月28日	資産総額	906,987,542円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	3,238,682円
受益権口数	3,208,352,246口	877,452,590口	△2,330,899,656口	純資産総額	903,748,860円
				受益権口数	877,452,590口
元本額	3,208,352,246円	877,452,590円	△2,330,899,656円	1万口当たり償還金	10,299.69円

◆毎計算期末の状況

計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	3,199,542,534円	3,169,481,538円	9,906円	45円	0.4500%
第2期	3,169,364,201	3,088,905,002	9,746	45	0.4500
第3期	3,125,559,009	3,037,929,716	9,720	20	0.2000
第4期	3,069,237,787	2,923,990,087	9,527	20	0.2000
第5期	2,993,690,739	2,891,719,950	9,659	20	0.2000
第6期	2,878,940,685	2,826,111,515	9,816	20	0.2000
第7期	2,705,877,541	2,660,106,627	9,831	5	0.0500
第8期	2,460,326,474	2,480,741,390	10,083	5	0.0500
第9期	2,291,207,814	2,371,178,050	10,349	5	0.0500
第10期	1,940,912,601	2,017,314,082	10,394	5	0.0500
第11期	1,744,314,284	1,822,789,015	10,450	5	0.0500
第12期	1,643,236,017	1,718,736,350	10,459	5	0.0500
第13期	1,138,857,145	1,180,462,579	10,365	5	0.0500
信託期間中1万口当たり総収益金及び年平均収益率				504.69円	1.4072%

◆償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込）	10,299円69銭
---------------	------------

◇償還金は償還日から起算して、5営業日までにお支払いを開始いたします。

◇償還金に対する税金は次のとおりです。

個人の受益者の場合は、償還時の差益については申告分離課税が適用され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率となります。

法人の受益者の場合は、償還時の元本超過額について15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の率による源泉徴収が行われます。

※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。